

序

ご存知の通り、消毒薬とは、滅菌剤と異なり、その抗菌スペクトルからはみ出していて、無効な微生物が必ず存在しているのが特徴です。従いまして、その使い方が、重要な課題となります。手術野の消毒に用いることができ、かつ、有効である消毒薬はその種類が限られております。今回、本書を刊行するにあたり、幅広い観点から手術野消毒薬を論じて頂きました。

いくら適切に生体消毒薬を選択して適用しても、手術野を無菌にすることはできません。そこで従来から、手術野の無菌性を高める工夫が種々取り入れられてきました。勿論、手術そのものが無菌でない事例も数多く存在します。そこで重要となるのが、術中の対象微生物を考慮した抗菌薬投与で、目的とする組織に有効な抗菌薬濃度を維持するという対応です。このことが常識となってきました。

しかし、手術野に存在する微生物を、手術野消毒によって、可能な限り低減させておくことが肝要です。本書では、概論、部位別適応、留意点、各論、使用上の臨床手技、使用上の留意点、等と色々な観点から手術野消毒を論じて頂き、実地的な教科書となっており、手術に関与する皆様方のお役に立つことが多大であると確信いたします。

本書を有効に活用して、より安全性の高い手術を遂行されることを願って止みません。また、各項目に関して、わかりやすく解説して下さった著者の皆様方に、深く感謝致します。

2016年3月

小林 寛伊